

## 池田文書の研究(二十八)

## 竹山屯の書簡について(その一)

## 池田文書研究会

## 一、竹山屯の略歴

屯(たむろ)は、字は義種、号は香山、又陳卿とも。天保十一年(一八四〇)六月十日医家竹山甫祐(祐卜)の四男として越後に生まれる。代々医を業とし、兄の養嗣子となり六代目を継ぐ。安政五年十九歳で江戸遊学。その後、姉の夫蘭方医入沢恭平について医業を学ぶ。慶応元年長崎医学院に入學。戊辰戦争の折には軍務官診療師、明治二年越後府病院頭取となる。明治三年新潟県仮病院の一等主医となり、四年辞職して故郷熊の森で開業し、明治八年私立新潟病院副院長兼医学校助教、九年副院長。同年四月私立新潟病院は改称されて県立新潟病院医学所となり、翌十年同院長。十一年院長及医学所長、十二年医学所は再び改称されて県立医学学校となり、同校長に就任。

明治十八年、四十六歳で新潟病院長を辞職、日新堂を開業。三十年新潟銀行(第四銀行)監査役、三十六年十月竹山病院開院。市参事会員、農工銀行監査役を歴任。四十四年七十二

歳で隠居し、大正七年(一九一八)八月三十一日没、年七十九。(参考文献・大日本製薬「メジカルニュース」三〇九)

## 二、屯の書簡

屯は、謙斎の兄嫁(唯)の弟に当るので、二人は公私ともに関係が深い。

屯からの書簡は七十三通を数え、謙斎への来信数では最多を占める。

## 三、書簡の内容

屯は、竹山家の当主(長兄・亨)が明治十一年に死亡したため、竹山家の後見役の立場上中央に出る事もなく地方医家として過ごした。謙斎は実家入沢家の健康管理を屯に任せただけで、書簡は勢い親戚関係の病状報告、医療的指示を仰ぐものが多い。

それ等の他には、医学界人事の相談や就職斡旋、患者紹介、入沢家・竹山家の人々への心配や相談、最新医学情報を乞う書簡、蓄財への協力依頼まで多種であり、又一通の長さが特に長大なのも特徴の一つであろう。

(斎藤美栄子)

## 竹山屯書簡一覧

登録番号	差出人	受取人	年月日	内 容
1	1916 竹山屯	池田謙斎	(明2)11 14	医学校組織 満氏内科書
2	1910 竹山屯	池田謙斎	(明2)11 26	草莽隊重患診察 人事・新薬及び薬価 佐藤三朔への添書 大助教就任祝い 医書二冊差上
3	1923 欠	欠	(明3) 2 6	東京病院転勤内命あるも新潟に病院取 建あれば、老父看病の為在国希望 長 崎荷物 満氏内科書 大輪のカミルレ
4	1914 欠	欠	(明3) 3 25	医学校創設 市中施薬院取建被仰付 英人教師フラーウ 医書受領 長崎荷 物先生男児出生後物故 医学界人事
5	1912 竹山屯	池田大助教	(明3) 4 14	「英蘭対訳通弁書」購入依頼(新潟 昆沙門嶋病院より)
6	1902 屯	池田大助教	(明3) 5 4	愚弟円の勉強御指揮願 上京よろしく
7	1915 竹山屯	池田謙斎	(明3) 5 16	病院開設したし 医療器械・内科書・ 薬剤書の新知識知りたし 御地医学 校の情報を御賢兄まで 長崎荷物
8	1926 竹山(屯)	池田少典医	(明3) 6 7	愚弟罷出入寮 長与君よりの誘い大幸な れど 長崎荷物の件
9	1944 竹山屯	池田隠居	(明7) 5 15	謙斎の留学延長費用抛出の件 入 沢恭平墓碑建立の件(墓の絵入り)
10	1896 竹山屯	池田謙斎	(明9又は13)1 5	新年賀状 浅岡・今町姉・行田の病 状報告 浅岡類焼 謙斎西京行
11	1911 竹山屯	池田謙斎	(明10)1 23	(両国滞在中)図書返却 カラーメル 代金何程 (謙斎下谷在住)
12	1917 竹山屯	池田(謙斎)	(明11)3 17	外人教師オック氏給料 西野老人 病状処置 白勢氏病状処置
13	1938 竹山屯	池田(謙斎)	(明11)4 27	御尊父輕快 医員雇の周旋頼む 新雇外人ハウトマン氏の件
14	1936 竹山屯	池田(謙斎)	(明11)5 19	西野御老人大いに輕快 給料増額 あり(5円)
15	1941 竹山屯	池田(謙斎)	(明11)7 3	製薬学生にて独か蘭の通弁を兼ね る者雇入の件 副院長雇入の件 謙斎脚気病院設立で多忙中
16	1919 タケヤマ	イケダ	(明11)9 13	(電報)イママチアネソットウ治療指示 依頼
17	1928 竹山屯	池田(謙斎)	(明11)10 21	西野御老人御輕快 姉も順快
18	1927 竹山屯	池田(謙斎)	(明12)頃 7 20	中根重一(医学部教師随従の通弁 を志願)
19	1913 竹山屯	池田(謙斎)	(明12)以後 4 14	当院副院長欠員補充依頼
20	3308 欠	欠	明14 9 4	新潟医学校人事(山崎との確執) 雇入給与 職制改正通達の写し

登録番号	差出人	受取人	年月日	内 容
21	1918 竹山屯	池田(謙斎)	明15 7 19	行田御内君逝去 清夫婦病氣につき前後策
22	1935 竹山屯	池田(謙斎)	明16 1 3	新年賀詞 医学校存続問題 組織人事内紛
23	1898 竹山屯	長与専斎・池田謙斎	明16 6 11	大谷周庵一等教諭兼医長の周旋御礼 赴任旅費について
24	1931 屯(竹山)	池田(謙斎)	(明16)頃 6 16	官吏(浅田・川俣)赴任旅費の件 謙斎病氣見舞い 与板池田内君病状軽快 達吉校検上等の出来
25	1956 竹山屯	池田(謙斎)	(明16)頃 7 31	西野御老母帰着 謙斎全快 浅田・川俣発途の報知あり 豚児祐ト(亡兄の子・祐彦)落第の様子 注文書籍代15円
26	1908 (竹山屯)	(池田謙斎)	明16 12 10	達吉も首尾よく及第 教員人事と採用俸給(大谷・浅田・川俣)
27	1946 竹山屯	池田(謙斎)	明16 12 27	新潟医学校校人事 達吉昇級第七人目上出来 敏の小遣い 祐彦(亡兄の子)の不勉強 席二の事
28	1960 竹山屯	池田(謙斎)	(明18) 2 9	浅岡老人死去 祐彦の不始末 竜保・敏太の件 公債譲渡で学費充当 病院開業の件
29	1891 竹山屯	池田(謙斎)	(明18)頃 2 23	敏太の就職困難につき新潟今町のあとを継ぐ件 祐彦不始末の処置
30	1932 竹山屯	池田謙斎	(明18)頃 5 20	長倉一等属婦県 新潟医学校廃止説再燃 医学校々長心得辞す
31	1899 欠	欠	(明18)頃 欠	今町にても病院廃止について善後策 祐彦廢嫡云々 浅岡家善後策 小生開業決心
32	1904 欠	欠	(明18)頃 欠	学校辞職及び位階につき相談 長与へ周旋依頼
33	1907 屯	斎(一部欠)	(明20代) 欠	(本文欠)金禄公債の鉄道か郵船株への買替え依頼 旧冬以来の金融引締め 鮭呈上
34	1894 竹山屯	池田謙斎	明22 1 2	新年挨拶
35	1893 竹山屯	池田(謙斎)	(明22) 1 22	姉の病状追々快方へ 旧公債額面2万円購入依頼 敏太の件
36	1965 タケヤマタムロ	池田謙斎	1 28	(電報) 公債買入れ依頼
37	1934 竹山屯	池田謙斎	(明22) 1 28	郵船又は鉄道株の購入 代金を替振込み
38	1924 竹山屯	池田謙斎	(明22) 1 30	達吉卒業試験上出来 為替振込券郵送日本鉄道・郵船株購入依頼 28日と本日分の為替着の通知を乞う

登録番号	差出人	受取人	年月日	内 容
39 1903	竹山屯	池田謙斎	(明22) 2 13	郵船株45株御請求被成下 入沢送り金不足 2月11日未曾有の盛典意外の出来事
40 1922	竹山屯	池田隠居	(明22) 7 15	郵船株45株購入につき、為替送付先生奥様伊香保行(宮様随行)
41 1940	竹山屯	池田謙斎	明23 12 3	達吉学費送金500円依頼(ドイツ留学中) 豚児(正男か)勉強不進
42 1925	欠	欠	明29 4 11	(本文欠)入沢茂容体・指示を乞うかず様凶報
43 1954	竹山屯	池田(謙斎)	明29 4 28	茂の詳細容体 おたを出港
44 1953	竹山屯	池田謙斎	明29 5 6	茂容体
45 1950	竹山屯	池田(謙斎)	明29 5 15	茂容体 茂入院費及び付添費計算書(別紙)
46 1909	竹山屯	池田(謙斎)	明29 6 6	茂病状
47 1952	竹山屯	池田謙斎	明29 6 9	入沢茂逝去報告 茂体温表(別紙)
48 1957	竹山屯	池田(謙斎)	(明29)頃 6 12	入沢茂家の不幸 おみう・老母病状葬送金の事 公債の件
49 1949	竹山屯	池田謙斎	(明30)以後 4 6	中沢要吾の葡萄酒について試用の上称誉の数語を
50 1897	竹山屯	池田謙斎	(明30)以後 5 29	聖上の御異例にて多忙 かずと七郎の病状報告 七郎の転地の相談
51 1930	竹山屯	池田(謙斎)	(明30)以後 6 18	かず皮下注射 麦奴丸による消毒法 七郎手術 宮様御異例
52 1929	竹山屯	池田(謙斎)	(明30)以後 8 21	葡萄酒製造家中沢要吾の紹介と依頼(赤酒の評証)取次 七郎容体報告
53 1945	竹山屯	池田(謙斎)	(明35)12 23	池田家の婚儀済み、謙斎礼状への挨拶
54 1892	竹山屯	池田(謙斎)	3 24	浅岡別戸 公債の事 藤田治吉の診察依頼(紹介と病状報告)鮭贈呈
55 1895	屯(竹山)	池田(謙斎)	10 7	贈物礼状
56 1900	竹山屯	池田謙斎	3 18	株 正男学業不振 縮一反拝呈
57 1901	屯(竹山)	欠	11 30	行田御内閣重症診察し追々快方へ 地方医学校規則について 謙斎兼務辞職 医員・教員雇用 病院・医学校の権限を分つ事 敏太開業免状 達吉・敏太学費百円御落手被成下候由

登録番号	差出人	受取人	年月日	内 容
58	1905 竹山屯	池田隠居同奥様	4 18	清出張 敏太学費 武者春道の倅 医学修業のため出京
59	1906 竹山屯	池田(謙斎)	3 27	真綿呈上
60	1920 竹山屯	池田秀男	4 9	病院教師雇入の際の配慮に感謝 先生久留米病院へ御出張
61	1921 竹山屯	池田(謙斎)	12 21	武者春道(水原出身医師)死去
62	1939 竹山屯	池田(謙斎)	11 9 <small>カ</small>	医学士雇入 医学校改正について 達吉学費百円御送付 敏太も通学 大いに勉強の由
63	1942 竹山屯	池田(謙斎)	10 15	医長雇入の件
64	1948 竹山屯	池田(謙斎)	9 16	人事 山崎の月給相違 東伏見宮 様の書2葉、関根へお託し
65	1951 竹山屯	池田(謙斎)	5 7	船越村林格太郎の心臓病診察依頼 西野御老母御出港 プレウクバンド 取寄試用、至極適当 池田伝吾、与 板郡役所の書記に転勤
66	1955 屯(竹山)	池田(謙斎)	10 25	竹山病院当直医佐藤巴の事 敏太・ 浅岡親子の事
67	1958 竹山屯	池田(謙斎)	7 3	根津五郎次より添書頼まれる(郡病 院長雇入の件) 大谷周庵不快勝 ちて出京 小生辞表内願不被聞届 行田君病状稍軽快
68	1959 竹山屯	池田謙斎・秀男	5 5	竹山正男ドイツ留学により、上野精養 軒へ招待
69	1937 竹山屯	池田(謙斎)	5 13	竹山正男出帆
70	1961 竹山屯	池田謙斎	4 5	近火見舞御礼 普請等の雑事蝟集
71	1962 竹山屯	池田(謙斎)	12 6	浅岡の件 横浜大火(二三日前)
72	1964 竹山屯	池田謙斎	2 26	新潟医学校理学士雇入の件
73	1933 竹山屯	入沢達吉	5 17	池田先生中風発作(右半身不随・失 語)驚き入る 病院類焼免れる 天 野氏の様子
(参考資料)				
74	1947 (島村祐信)	池田留守宅	6 4	診察依頼 田村篤二を紹介

1 明治二年十一月十四日

一九一六 竹山屯 池田謙齋

尚々新潟ハ緒方四郎在勤、英人洋学伝習いたし候様ニ  
此程相成候様承り候、医師ニハ有之間敷候

九月廿二日之御返翰奉誦候、時下逐日雪天、益御多祥奉  
恐賀候、扱先境ハ至急之便ニ御伺申上候両葉コロジーン・  
タネカス御教示被成下、千万難有奉多謝候、尚又別紙之不  
分之藥品御坐候間、不顧御多忙記差上候、葉性效能用量価  
等一々其下ニ御記し御投与被成下度奉伏願候、意外之御手  
数何共恐縮之至ニ御坐候得共、荒境独学別ニ為聞候仁も無  
之困却罷在候間、右御憐察委曲御記教被成下度呉々奉拝願  
候

一、兼て御託し之満氏内科書漸写取、則進上仕候間御落手  
被成下度候、御地辺ハ定て日々新規之發明御目撃も有之、  
最早陳腐為差御入用も不為在候ハ、御返却被成下候て宜敷  
御坐候、多忙ニ取紛餘り遅々ニ相成候罪、偏ニ御海知是祈  
一、越後土産壹冊拜呈仕候、思郷之情を催起候様是祈、御  
笑置被成下度候

一、諸官共御変革ニ相成、先生方も官名相変候哉、御地医  
学校之規則書并ニ医官員趨方月給等級全之様子刻限等為御  
写御投与被成下度候

一、府藩大中小之医学校病院等ハ一定之御規則も相建候事ニ  
御坐候哉拝聴仕度候

一、在町医等迄御触有之候趣、追て學術御検査も有之候哉、  
此節尚又噂いたし候も有之候、是ハ如何之御規則にて御吟  
味ニ相成候哉、誠ニ御維新之大幸我道之開候基原ニ可有之  
候、是又拝聴仕度候、シネース家は如何相成候哉

一、先生ハ当国え両三年御在勤被成下度儀は相叶間敷哉

一、当県も何事も不規則困却罷在候、此節草莽隊五六百人  
も御坐候、是ハ各隊ニ医師御坐候得共、重患は僕診察仕焦  
心罷在候、僕先達迄は六等官にてエインマン六〇コツバ  
ンニ御坐候処、此節ハ二〇コツパンニ相成候、先生は如何、  
未タ病院も取建候儀ニも不相成、何事も不規則ニ御坐候、  
辞職も仕候得は東京再遊之心掛ニ御坐候、愚弟も此節僕方  
にて使置候、何れ来春ニも相成候ハ、出府為致度心掛ニ御  
坐候、左候得は又々御厄介相願候而已ニ御坐候

一、先々月福井長谷川泰一郎復庵改名横田之医師老人、小池元  
庄屋齋藤源治外老人、四人にて出府いたし、泰一郎ハ東京  
医学校方被召候と申事、是ハ鍋嶋之相楽某之推挙ニも御坐  
候哉、尤も親子不兼て出府之心掛御坐候由承り候、学校  
にては如何之官ニ御使立ニ相成候哉

一、コロヒキユク丁幾ハ御地ニ御坐候哉、価ハ何程ニ御坐  
候哉、相聴仕度候

一、当地ハ諸藥品昨戦争后引下ケ不申意外之高価、是ニハ  
困却罷在候

一、疥癬之新藥本草三即効有之品參り候哉二承り候、何と申品ニ御坐候哉

一、倉次元意と申仁之筆記、ボンペー之眼科書上梓二相成候由、ボウドエン之眼科書ハ上梓被成候ては如何御坐候哉、僕も兼て之に至願ニ御坐候、総て上梓仕候ニは如何之事ニて出来候哉、満氏之察病三法ベルクラーキ、オウスキルター、バルバシー上梓仕度心掛ニ御坐候、御校正御尽力被成下候儀は相叶間敷哉、尤も利潤等ハ心掛無之候、幾重ニも右御尽力被下候得は御報可仕候、則愒草新□中ニ写差上候間、先生御誦閣被成下度候

一、此手紙ハ当県監督伊藤退蔵水原今夕出府ニ付託し候、五六日も停留可仕候間、何卒此帰便右拝願条々一々御教示被成下度奉希上候、同人旋宿ハ手紙之表書ニ認差上候、水原県公用人遠藤七郎巖崎水原県屋敷ニ罷在候、時々当所之便も可有之候間、御旧家之御便之節ハ右之御差出し、僕方迄御遣し被成下度候、色々之儀御尋申上候、何様御手数奉恐察候得共御返書被下度奉待上候、先ハ折角時下御厭專一二奉存候、乍末筆御一統様之宜敷御配声奉希上候、恐々頓首

霜月十四日認発 竹山屯拝

池田謙齋様侍史

2 明治二年十二月二十六日

一九一〇 竹山屯 池田謙齋

小書拜啓、時下逐日雪天相催候処、益御勇猛御精勤奉大賀候、陳は今般小生知己芝田藩佐藤周甫と申もの、性三朔、医学為修業錦地え罷出、佐藤舜海方へ入塾いたし度趣ニて展書被頼候得共、僕忝人も知己無御坐候、就は先生之一書差上呉候様被頼候間、何卒可然御教諭御指揮奉希上候、併佐藤舜海老之塾も門生減候哉ニも伝承仕候、御地之大家へ入塾仕病院へ出勤仕候様いたし候方為修業弁利ニも可有之哉、幾重ニも其儀ハ御接眉上無御遠慮御教示被下度、從僕呉々奉希候、同人儀は兼て存候事ニて決て粗慕之儀は無之仁物ニ御坐候間、御案心被下度候、右拝願迄秃筆御助誦奉希上候、乍末楮御海堂様宜敷御配声奉希候、書外後鴻縷々可申上候、草々頓首

霜月廿六日 竹山屯

池田謙齋様金匙下

尚々先生大助教被為仰蒙哉二伝承仕候、大慶此事ニ御坐候、長谷川泰一郎ハ少助教とか申事如何、当月上旬満氏内科書式冊縷々認候書状を中ニ封、当所役人伊藤退蔵と申ものへ託シ差上候、最早御落手奉察候、何卒縷々之御返書奉待上候、若万々一不届候ハ、水原県屋

(齊藤)

敷即小石川御門内元河内佐太郎也敷(マヤ)ニテ伊藤退藏か又ハ遠藤七郎と申ものへ為聞合被下度候、頓首

(齊藤)

3 明治三年二月六日

一九二三 竹山屯 欠

(端裏書) 竹山屯

(別巻ニ)

一筆啓上仕候、時下餘寒未退兼候得共、御満堂様益御多祥奉賀上候、当地無異送光御省慮奉折候、扱先月廿七日付金革隊塚田万八なるものニ托し呈上仕候書中ニ、小生儀東京病院へ転動いたし候様内命御坐候ニ付、御局方御召之儀拝願仕候処、当朔日当縣へ罷出候処、追て新潟ニ病院御取建之集議も可有之候間、先当分是迄通り相勤候様御沙汰有之候間、前件御周旋暫時為御見合置被下度候、当国ニ病院御取建ニ相成候ハ、何れ御局方大助教か中助教か博士之内老式員御出張ニも相成候様之嘶も承り候へ共、何分入費出処之儀未決定不仕候、夫故決議ニも相成不申、弥決議之上ハ先生并ニ高橋兄等御出張ニ相成候様今方祈居候、左候ハ、イキ、オウスト、のホスピタル、のヒルプ、ケールデル、ミ、ランデル、タラップニ迄加り、当国ホスピタルニテ勤候様懇願ニ御坐候間、御含置御周旋アレバクフ

トくく奉伏希上候、僕も実は未熟ニ御坐候得は唯今方刀圭を売弄いたし候了簡も無御坐候得共、何分老父病中壹兩年之内ハ可相成は異境え罷越候事不安候間、此儀御憐察、於当国公務之暇伝習受業も相成候様宿願ニ御坐候間、御取斗奉伏希候、併父母之膝下ニのみ碌々光陰ヲ送り候て孝と申ニも無之候間、不得止候得は遠境隔地へも参り可申候得共、右申上候様病父之事故、危急之儀も難斗候間、可成丈当分遠方へハ離度無之候、且当年ハ亡母二十七回忌辰ニも相当候間、是も焼香仕度候、十七回十三回之節ハ他境ニ有之、当年ハ幸当地ニ御坐候間、旁に老父も離シ兼候様申居候、任御懇切不図自侷之情実長文言ニテ申上、御披見もラストフ之事ニ奉拝察候得共、何卒御諒察可然御取斗奉折候一、長崎之荷物ハ昨夏下之関迄之便ニ差出し候様申送候、何れニ滞居候哉、当年ハ必相届候事ニ奉遙察候、其後も度々書状差出し促し候

一、長崎満氏内科書各論呼吸器方生殖器病迄既ニ講義ニ相成、追々先方方送り呉候様頼遣し置、此節消食器病迄参り候得共、小生一見も不仕候間、其内為写拝呈仕度と奉存候、右之儀奉懇願度急便秃筆御助誦奉折候、乍末楮御一統様へ宜敷御配声奉希上候、何卒御返書奉待上候、後便縷々拝謝可申上候、頓首々々

二月六日認発

尚々先日拝呈仕候ブリーフ并ニ此ブリーフ共御覽後フルブランドン必御願奉申上候、以上



尚々大輪之カミルレト申品当地へ参候、是は從來之品  
と申し免角如何之ものニ御坐候哉、御序御教示奉祈候

(齊藤)

4 明治三年三月二十五日

一九一四 欠 欠

(端裏書) 池田先生 (別紙) 竹山屯の手紙

同県大属飯塚貢<sup>左様</sup>出府ニ付一書拝呈、辰下逐日春暖相催候  
処、絳帳益御多祥被為遊御起居扑躍不斜奉恭賀候、小生碌  
然御省慮被成下度候、然は正月十六日御認御状当廿日到来  
奉誦候

一、ベルキュシー等之書上木之儀御周旋被成下候様御申越  
二御坐候得共、未夕其佩打捨置候、先般写取拝呈仕候分ニ  
御坐候、定て疾御覽被下候事ニ奉存候、右ニ御校正を相願  
候ハ、上木仕候て相分候様ニ相成候哉如何、何分疑力淺識  
自己ニても全理解いたし兼候処も有之候事ニ御坐候

一、官位相当表、日講記聞、職員録、御惠投被成下珍書  
毎々難有奉多謝候

一、長崎御荷物は昨六月十日下ノ関宿阿み屋利助方<sup>右</sup>新潟  
山崎屋利左衛門方<sup>左</sup>送り候趣、長崎伊勢屋清吉去脈帰国被  
申候処、千今新潟着不仕、依ては同人<sup>右</sup>下之関へ早速書

状差出し穿鑿仕、且同人も来月中ニハ尚又長崎へ参り候趣、  
依ては其節も尚又穿鑿いたし早速相届候様取計可申と申事  
故、左様御承引被成下度候、餘り遅々ニ相成、加之右様之  
間違ニて意外之心配甚困却仕居候得共、不得止儀不悪御思  
召被下度候

一、片貝、石黒、長谷川少療長<sup>少療長</sup>之由、但し長谷川ハ中助  
二相成候由申送候由如何、才子は夫々拔擢被致候事ニ御坐  
候

一、先生旧冬比御弄璋之慶御坐候由、然ル処無程物故被成  
候趣、何様御遺憾奉拝察候、僕は千今一女子も無之所ニ勤  
廻り候ニは大ニ都合もよろしく、且貧生経済之一助ニも御  
坐候得共、兎角寂然たる事ニ御坐候、呵々

一、二月十日比当所嶋屋佐右衛門出店へ書状一通差出し  
呈仕候、定て疾御披見と奉察候、甚節東京行為見合ニ相成、  
是迄通り相勤候云々申上候処、此度急ニ当所県新潟へ転移  
ニ相成、同所ニて市中施薬院取建ニ相成候ニ付ては、小生  
右取建御用被仰付五七日中先方へ引越申候、追々市中献金  
多分ニ相成諸藩合力仕候へは、太政官へ願立当国一般之中  
医学校御取建ニも相成候稟議ニ御坐候、左候得は何れ大学  
東校方<sup>右</sup>三君御降ニ相成可申候、若左様相成候ハ、先生御  
帰省旁一兩年御出張ニ相成候様、僕夫而已祈居候、就は長  
与専齋君も長崎教官被仰付候由、於県医学校病院等御取建  
ニ相成候儀ハ如何之御規則ニ相成候事ニ御坐候哉、新潟も  
開港場之事故始終ハ是非医学校も取建可申心得ニ御坐候、

何卒御懸念被下置、当国医学相開候様御尽力奉希候、長崎  
県医学校之規則等追々為御知被成下度奉祈候

一、二月十九日御認七日切之御状昨廿四日旧里に到来、拝  
見仕候、東京行内命云々之儀ニ付厚御周旋被成下、縷々御  
申越被下御厚情不浅奉感荷候、知足之御教誡至当之御儀ニ  
御坐候得共、少々人ニも為知候処、御存之浅学劣術後進之  
恐も御坐候間、何卒今両三年も錦地へ罷出研究仕度事ニ御  
坐候得共、自費之私遊にては少々不都合之儀も御坐候て、  
縷々先般拝願仕候事ニ御坐候、此ニ新潟へ転勤仕候て英教  
師フラーウなるもの教師いたし居、緒方四郎頭取にて生徒  
教育候事ニ御坐候間、私診相断餘暇英学ニ従事仕度心組ニ  
御坐候、何卒此上無御見捨御助教被成下度奉祈上候

一、清水謹吾外二十人程教官試補と申事、是ハ東校ニ御坐  
候哉、大学ニ御坐候哉

三月廿五日

尚々別紙所書不分明ニ御坐候間、大学にて御尋御序儘  
ニ御届被成下度奉祈候、頓首 三白、佐藤周輔之息は  
最早齋訳寮へ入寮ニ相成候哉

(齋藤)

5 明治三年四月十四日

一九二二 竹山屯 池田大助教

本紙去月飯塚ニ托し最早相届可申心得之処、同人東京行為  
見合之由にて此間返却仕候ニ付当所嶋佐出店へ差出し申候、  
当所引移后も不相変俗事繁冗碌然困却罷在候、官へ申立候  
得は大学の一員御呼寄ニも可相成哉ニもそんじ候、左候へ  
ハ先生御出張被成下候哉、此段拝伺仕度候、後便御申越被  
下度候、頓首

四月十四日

新潟毘沙門嶋病院 竹山屯

池田大助教様侍史

英蘭対訳通弁書一冊、右古本ニてもよろしく御坐候間  
冊御求御遣し被成下度、乍御手数奉拝願候、頓首

(齋藤)